

2023年度（令和5年度）

福山市教育委員会会議録（第1回）

【4月19日（水）開催】

福山市教育委員会

福山市教育委員会会議録（第1回）

1 招集年月日 2023年（令和5年）4月19日（水）
午後2時00分

2 場 所 教育委員室

3 出席委員 5名

出席又は欠席	席番	名 前
出席	1	三好雅章
出席	2	金 仁 洙
出席	3	神原多恵
出席	4	横藤田 晋
出席	5	小丸輝子

4 会議に出席した事務局職員

管理部長	藤井紀子
学校教育部長	亀山貴治
学校教育部参与	寺田拓真
教育総務課長	亀山聡子
政策調整官	手島智幸
施設課長 兼学校再編推進室主幹	藤野原啓宏
学校再編推進室長	皿海三樹夫
中央図書館長	延近久恵
学事課長	本宮政尚
学びづくり課長	片山富行
文化振興課 文化財担当課長	高松秀幸

5 会議の書記

教育総務課総務政策担当次長	西岡雅之
教育総務課職員	亀田千景

【開会時刻 午後2時00分】

- 三好教育長 それでは、ただいまから、2023年度（令和5年度）第1回福山市教育委員会会議を開会いたします。
- 本日の議案ですが、議第1号から議第4号までは人事案件のため、福山市教育委員会会議規則第13条第1項の規定により秘密会として審議し、審議の順番は公開する案件の後としたいと考えます。また、議第4号は教職員の人事案件のため、最後に関係者のみで行いたいと考えますが、御異議はございませんか。
- 全教育委員 （異議なし）
- 三好教育長 御異議なしということで、これらの案件は秘密会とし、その他の案件は公開といたします。
- 初めに、日程第1 教育委員会会議録の承認についてです。
- 2023年3月17日開催の第13回および2023年3月24日開催の第14回教育委員会会議録について、何かございますか。
- 全教育委員 （異議なし）
- 三好教育長 御異議ないようですので、教育委員会会議録を承認することとし、会議終了後、委員の皆さまの署名をお願いいたします。
- 次に、日程第2 教育長の報告についてです。
- 資料の1ページをお願いします。
- 4月3日がスムーズにスタートできるようにということで、3月31日に新たに小・中学校の管理職になられた方へ辞令を交付しました。新しく管理職になられた方の学校すべては訪問できていませんが、校長になられた方は自校の状況を見ながら、自分の実現したいビジョンを教職員としっかり話をされながら進められている様子を確認させていただいております。
- 教頭は共通して、仕事が変わったようだとされていました。同じ学校にいても教頭がどんな仕事をされているかをつぶさに見ることがなく、初めて教頭の席に座ってやり始めてみると、仕事が変わったように感じられ、かなりパニックになっていますと笑顔で話されており、しんどい状況にある中でも、校長を補佐しながら、元気にスタートされている様子が伺えました。
- 学校を回っての感想ですが、子どもたちも先生たちも前向きに頑張ってもらっていると思います。また、マスクが外せない状況があることは、確認しています。管理職はすでにマスクを外しており、先生の中にも徐々に外し始めている方がいらっしゃいます。体の一部のようにしてしまったマスクを外すというのは、なかなか大変だと思いますが、一方で、顔を見ながらやりとりする良さを感じ、徐々にマスクが外せているというお話を聞きますし、そういう状況も確認させてもらっています。
- 以上です。
- 御意見、御質問はありませんか。
- 全教育委員 （なし）
- 三好教育長 それでは、次に、日程第3 協議事項「Rose&Peace教育」の推進についてを議題とします。

片山学びづくり課長

説明をお願いします。

2 ページを御覧ください。

「Rose & Peace 教育」は、2025年（令和7年）に福山市で開催される「世界バラ会議 福山大会」を、児童・生徒にとって、またとない学びの場・機会と捉え、福山100NEN教育における「大好き！福山～ふるさと学習～」の一環とし、全ての市立学校で展開するものです。

「ばら」を素材に友達や地域の方と協働したり、世界の人々と触れ合ったりするなど、各学校の創意工夫による取組を通して、国際的視野を持って世界の平和と人類の発展に寄与する態度を育み、個人と社会のウェルビーイングの実現を目指します。「2 育成すべき人間像」、「3 基本的視点」については、御覧のとおりです。「Rose & Peace 教育」で育成する人間像は、福山100NEN教育でめざす子ども像と同じです。

3 ページを御覧ください。

4 本教育を実施する期間は、2023年度（令和5年度）から2025年度（令和7年度）の3年間とします。なお、本教育に係る取組は、世界バラ会議終了後も、引き続き、発展させながら、継続していきます。

5 「Rose & Peace 教育」で重点的に育成すべき資質は、「ローズマインド（思いやり・優しさ・助け合いの心）」、「自然愛護の精神」、「日本人としての自覚と誇り」、「豊かな国際感覚」の4つです。

6 学習・教育活動の進め方についてです。各学校は、これまでの実践、特色と世界バラ会議を関連付けた「Rose & Peace 教育」をカリキュラムマップに位置付け、学校全体で組織的・計画的に展開し、保護者や地域住民等の参加を促す取組、国際理解教育や国際交流を進める際には、伝統芸能・文化の学習や地元の史跡等の魅力を自ら発信できるような取組等に努めます。

7 「Rose & Peace 教育」の推進を支えるために市教委が実施する取組についてです。市教委は、「大好き！福山～ふるさと学習～」副読本の充実、ばら花壇整備、ばら栽培の支援、初任者等に向けた研修、各校実践事例の報告・交流等を実施していきます。これらの取組を通して、「Rose & Peace 教育」を推進してまいります。

説明は、以上です。

三好教育長

御意見、御質問はありませんか。

金委員

これを読む限りでは、「Rose & Peace 教育」が具体的に何をやるものかが分かりません。ばらのまち福山というのも、実際にばらが何本あるのかきちんと把握されていない部分があり、ばらのまち福山という名前だけが広まっているなという感覚があります。

1つの取っ掛かりとして小中学生にできることは、各学校にばらが何本あるのか本数を数えることからはじめ、ばらに対する興味を持たせるのがよいのではないかと思います。

「Rose & Peace 教育」と言いながら、どのように福山100NEN教育の内容に組み合わせていくのか、言葉だけが先にいっているように感じました。少なくとも、学校にばらが何本あるのかを把握するのはよいと思います。

片山学びづくり課長

ばらのまち福山に関しては、「大好き！福山～ふるさと学習～」の副読本へ歴史等の内容が書いてありますので、小学校4年生から学習していくことが多くなっています。

各学校のばらの本数については、スクールローズガーデンプロジェクト

で、学校にばらの栽培講師を招いて植える取組を予定していますので、その取組の中でばらの本数を数えたり、また、保護者や地域の方も交えて取組と一緒にできないかということも、今後具体的に検討していきたいと考えております。

横藤田委員

基本的には「R o s e & P e a c e 教育」は福山100NEN教育の理念に沿ってできていると思いますが、現場の先生方からみると、位置づけの混乱を招いているのではないかと思います。

これが世界バラ会議を見据えたもので、これとこれをしてくださいと教育委員会から指示があればよいですが、やることは学校任せになっており、大きな目標が2本立ちしているように受け止められます。現場の先生がきちんと理解し、落とし込みができていないのが懸念しているところです。

片山学びづくり課長

各学校の取組については、学年ごとにカリキュラムマップで計画立てたものをもとに実行しております。

「R o s e & P e a c e 教育」については、今までしていた活動を「R o s e & P e a c e 教育」の理念・意義と照らし合わせていくと、今までしていた活動が「R o s e & P e a c e 教育」に関連付けられることが分かります。例えば、地元の文化を大切にするというのは、諸外国の国際会議にいられた外国の方に、地元の文化について紹介することができるなど、今している活動をどのように関連づけていくのか、今年度、整理していこうと考えております。

横藤田委員

新しく始めていくという意味ではなく、今までやってきたことへ「R o s e & P e a c e 教育」というタイトルをつけ、整理していこうという考えということですか。

片山学びづくり課長

新たな部分も加わるかもしれませんが、そのように整理しております。

小丸委員

日本で2回目の世界バラ会議ということで、この年に小学生・中学生になった方は本当に思い出深いものになるものと思っていますが、学校によっては、ばらに対する先生方の思いに温度差があるのではないかと懸念しています。一生懸命ばらを育てる先生もいれば、市からもらったからと置いているだけなど、色んなパターンがあると思いますので、途中経過の報告等をするようにすればよいのではないのでしょうか。

学校にはそれぞれの特色があり、ばらに特色づける学校もあれば、そうでない学校もあるのではないかと思います。そのあたりについては、カリキュラムを出して、学校からの返事を聞くなどして進めていくのでしょうか。

片山学びづくり課長

各学校の実践の取組は、スクールローズガーデンプロジェクトで実践校を募集し、世界バラ会議に参加される方にもつなげていくという学校を募集しているところです。その過程で、どんな取組をしたのか、これからどんなことを考えているのかということ、G o o g l e のクラスルームを使って各学校に発信し、途中経過も含め、取組内容の紹介をしようと考えております。また、ばらの栽培支援で言いますと、学校技術員さんにお願ひし、出前講座等を活用して、実際のばらの植え方・育て方や、世界バラ会議と関連付けた内容など、そういったことを支援していただけるよう、今、計画を立てているところです。

神原委員

保護者の目線から見たときに、ウェルビーイングの実現をめざすということの理念が壮大すぎて、通常の教科の方には影響が出ないのかなというところが気になりました。

	<p>また、ウェルビーイングの実現をめざす取組として、副読本の充実や花壇の整備が具体例として挙げられているだけで、基本的に各学校にお任せするとなると、理念や育成すべき人間像等と実際にリンクするのかなというところが少し疑問に思いました。もちろん各学校の裁量に委ねるということも大事だとは思いますが、ある程度取組例等を示していかないと、現場の先生方が困られるのではないかなという気がしました。</p>
<p>本宮学事課長</p>	<p>福山100NEN教育が目指すものと「Rose & Peace教育」が目指すものは全く同じ方向です。その中で、今、御意見をいただいた、学校任せになってしまうのではないかと、先生方の理解の中で差が生まれてしまうのではないかとこの点については、校長研修等で各学校の取組を報告させていただき、状況をしっかり把握するために指導主事が学校訪問等を通して確認を行っていきます。</p> <p>「Rose & Peace教育」の理念等については、あえて大きなものを載せております。これは今言っていたように、学校が主体となり、すでに取り組んでいることの中で、子どもたちや先生たちの新たな発想をしっかりと取り入れていくということを狙って示しています。そうした中で、学校任せにならないよう、教育委員会も一緒に中身を考え、教科とも関連させ、教科横断的な内容にしていきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>神原委員</p>	<p>この取組に時間が割かれて、普段の教科学習の時間が制約されるということはありませんか。</p>
<p>片山学びづくり課長</p>	<p>総合的な学習の時間や、社会科の中で歴史を学ぶ時間の1つとして考えているので、世界バラ会議の事だけを取り上げて、教科の中で使っていくとは捉えていません。横断的に学習深めながら、地域から世界へと視点を広げて、主体的に子ども達が考えられるように関わろうとすることも狙いとしています。</p>
<p>亀山学校教育部長</p>	<p>「Rose & Peace教育」の指針についてなんですが、以前から総合的な学習の時間の中で、ばらについて取り組んできた学校もありました。花壇の件ですが、学校によっては、10年以上前から、地域の方に学校に来ていただいて、ばら花壇の整備をしていく中で、子どもたちと一緒に学んでいます。各学校や地域に応じて、ばらとの関わりというところで以前から行っていました。改めて教育課程の中で、どういったことをしているのか確認していき、強制ではなく、教材研究の一つとしてばらが活用できないか、子どもたちにとって学びにつながるのではないかとこのこと考えながら進めていきます。</p> <p>まず今年度は、今やっていること、これから進めていくことも踏まえて、今どの位置にいるのか、どういうことをやっていくのかを改めて整理していくことから始めていこうと思います。</p>
<p>横藤田委員</p>	<p>ローズマインドの歴史を振り返ると、この1の意義の中の9行目「戦後、荒廃したまちにうるおいを与え、人々の心にやすらぎを取り戻そうを合言葉に、平和の象徴として、南公園にばらの苗1000本を植えたことからスタートし」とありますが、大事なことは誰が植えたかですね。主語がありません。役所が植えたのでは意味がなくて、そこに住んでいる市民が、瓦礫の山になった南公園の瓦礫を片付けて、そこにばらの苗を植えたということが大事ですね。この部分が3行ほどで書かれていますが、ここにもっと重きを置いて、なぜローズマインドが大事なのかですね。ローズマインドという言葉も、今から25年くらい前に青年会議所が創った造語ですが、その気持ちは戦後からあり、ローズマインドとつけたということです。資料中では、</p>

このいわれが軽いですよ。子どもたちにただばらを植えさせることが目的ではないと思います。気持ちを持たせることが大事であって、その気持ちの部分をもっと丁寧に説明をされたら、皆理解がしやすいのではないかと思います。

ではなぜその人たちが1000本のばらを植えたのかについてですが、私の知っている範囲では、昔、芦田川に、野いばらという野生のばらが群生していて、草戸千軒の堤防が決壊して何度流されても復興し、そこに咲いていたばらも同じように流されるけれど、また新たなばらが土手に咲き誇るといふ、そういうものをイメージして1000本のばらを植えたという話です。作り話かもしれませんが、そういった福山の歴史とばら、ここにいきなりばらが出てきても理解しづらいことだと思います。

歴史を紐解いて、草戸千軒の復興から戦後の荒廃から、市民が自らやったことだということになっていくとストーリーができて、それにまつわることをしましょうということで、ただばらを植えたり花壇の手入れをしたりではローズマインドではないですよ。一番大事なことは、ローズマインドを根付かせることであって、それを元にして今回のバラ会議をいい機会として捉え、国際的な人を育てようということだと思います。それが、これだけだと理解できないと思います。また、先ほど大きな枠組みにしていますと言われていましたが、大きすぎる感じがしますね。教育大綱の基本理念も大きいですし、この「Rose & Peace教育」の理念も大きいですよ。両方とも大きいと理解しがたいです。基本理念があるのですから、その中でローズマインドに絞って、「Rose & Peace教育」を進めるのであれば、皆さん理解しやすいのかなと思います。意義のところでもっと歴史的なばらの意味を教えてあげた方がいいのではないかと思います。

さらに、花壇や庭等、そこにばらがあるとなぜ市民によいのかということ。私の価値観ですが、ばらを育てるのは難しいですよ。かなりの手間がかかります。それができるということは、人々の心や時間、生活にゆとりがあるということです。ばらのまちは、ゆとりと潤いがある人々が住んでいて、行き交う人たちに一服の安らぎを与えたいという気持ちがある人々が住んでいるということが最終目的地だと思っています。

金委員

1000本のばらを植えて、25年前に思いやり・優しさ・助け合いの心というローズマインドを市のJCが中心になって作って、そういうものがありながら、いつの間にかばら祭りができて、ばら祭といいながらばらはどこにあるのかということ。物理的なばらの数がない中で、キャッチフレーズだけが前に出た祭りで、私はずっと違和感があります。そういう中で、ばらを育て、ばらの本数を把握し、今回の100NEN教育の中にローズとして組み込めるならいいのですが、祭りとしてのかい離がありすぎるように思いますね。これを機に、ばらの本数を把握して、ばらを増やして、ばらのまちというのが、物理的にばらが多いまちという形でもいいのではないかと思います。

三好教育長

せっかくの機会を子どもたちのものにしないのはもったいないと思います。やらされる感ではなくて、今まであるものを改めて再整理して、教育課程に位置付けて、バラ会議のためになってしまうのではなく、これを使ってどうするかということをやっています。また、委員の言われたように、改めて、この意義のところはどう記述するかを考えていきたいと思っています。本当に、この機会を、子どもたちにとって学べる機会にしたいと思っています。

それから、ばらの本数を数えるのは、個人的にとってもいい考えだと思います。今年1年はバラ会議を認知してもらうためにどうしていくかということで、自分の学校や地域のばらの本数を数えてみると、ばらに対する興味や色々な気づきがあって、入口として面白いですよ。これは是非やってい

きたいなと思いました。

それでは、いただいた御意見を参考に整理をしたいと思います。

金委員

秘密会に入る前によろしいですか。今回の議題にはないのですが、福山市の教育に影響を与えるのではないかという記事が3月25日の中国新聞の朝刊に、広大附属福山中高等学校の在り方が変わって、5年後に中等教育学校にするというものが出ました。現時点では、中学生男女60人ずつで120人の3クラスです。600人ほど受験している中で、480人程落ちているということですね。高校は、2クラス80名を募集して、それに対して270人から280人ほど受験しています。480人落ちた中の280人がまた受けて通って、現在200名の学校になっています。しかし、今回大学側が示したものによると、1学年1クラス32人学級にして128名、これで6年間を一貫した中等教育学校にするという案でした。これは問題だと思いました。中学受験で落ちた子を拾う道がなくなりますよね。福山市の中にいくつか学校はありますが、進学を目指す高校が多くない中で、一度きりの中学入試で後がないという中等教育学校を福山の附属が作った場合、問題ははっきりしています。小学校低学年から受験勉強にかなり加熱していただくろうし、学校の教育と塾教育との絡みで、学校の教育がある程度おろそかになっていく可能性があります。

人口減少が明らかにあり、福山市では、12歳から13歳の子どもが4200人から4300人くらいですが、0歳児は3160人に落ちています。75%の人口減が起きている中で、教員の必要性も少ないし、教員養成の必要性については、10年以上前から文部科学省から整理整頓するよう出ています。動きとしてはやむをえないものとしても、中学校で頑張っただけの子が受ける学校がなくなることにより、市外に出ないといけない等、色んな問題があります。市の教育委員会の管轄には関係のない話ですが、そういった影響に対する考え方は、小中学校教育を担当する教育委員会も考えておくべきかと思いました。

広島の本校が附属小学校・附属中学校・附属高等学校と小中高の一貫のようになっています。では中等教育学校にすればいいかというと、既に中等教育学校はありますし、120万人弱の人口がいる広島市には、学校の多様化というのがあって、色んな選択肢があります。残念ながら福山市にはそんな選択肢がなくなってきましたよね。こうしたことが起こりうることをどのように考えていくのか、また、お考えになっているのかということところです。

1つしかない国立が中等教育学校を選択していった場合、小学校にかなりの影響がでるし、中学生も望みがないからどこへ行こうかとなります。公立へ行けばいいかもしれませんが、そういう気持ちにならない子は市外へ出ていかなければならないですよね。岡山、四国、広島等、あちこちに負担をかけることになるだろうと思われまます。そういうことに対して教育委員会も少しは考慮しておいた方がいいのではないかと、こうした問題を捉えておいてほしいという思いです。

横藤田委員

おっしゃることはごもっともだと思います。

小学校6年生の受験で全てが終わってしまうというようなことですが、私の認識では附属中高というのは、ある程度教員の養成の場も兼ねているということですね。

金委員

養成と研究の場というのは大きな役割だと思います。

国立の附属が2校もあるところは広島くらいで全国でもありません。ちなみに中等教育学校を国立でやっているのは東京大学で、これは双子や三つ子を中心に入れていています。帰国子女を中心とした東京学芸大学国際中等教育学校もあります。また、神戸大学附属中等教育学校、奈良女子大中等教育学校があります。いずれも周りには進学校があって、1つくらいそうあっても関

係ない話で、東京は1校2校が中等教育学校をしても、たくさん選択肢があるわけです。福山市にはそうではないので、どうするのかを考えると、おそらく小学校4年頃から始めるであろう塾がもっと早くから始まるだろうし、学校教育との兼ね合いというものも問題だろうし、そのあたりの問題というのは捉えておいていただきたいなと思います。

横藤田委員

より小学校時代の受検が激化するということですね。

金委員

参与はお詳しいのではないですか。

寺田学校教育
部参与

私は県から派遣でこちらに来ておまして、県の方でも直近では1年半アメリカに留学をしていましたので、直近の県の考え方や表題の動向については十分に把握できておりませんが、御指摘のとおり、市全体の教育を見ながら分析・検討をしていく必要があると思いますので、県との繋がりの中で教育委員会としてしっかりと連携をして議論していきたいと思っています。

三好教育長

それでは、これより秘密会とします。
傍聴人は退席してください。

(傍聴人 退席)

予定しておりました議案は全て審議いたしました。他に何か、ありませんでしょうか。

全教育委員

(なし)

三好教育長

ないようですので、本日の教育委員会会議はこれで終わります。

【閉会時刻 午後3時30分】